



怒り地藏

自民党・比例選挙で33%の得票なのに

全体で6割の議席を獲得

前回の衆議院選挙を考える。当時の安倍首相は「消費税増税分の財源の使途変更」や「北朝鮮のミサイル発射実験を続ける圧力路線」や「少子高齢化」などの対応に国民の信を問うとして衆議院の解散を強行した。さらに「アベノミクスの成果」や「森友・加計問題」にも言及し、これらをもって「国難突破解散」と名付け、2017年10月22日の衆議院総選挙で、自民党は289選挙区で2672万票を獲得、得票率は48%でありながら全議席の75%を占める218議席を獲得している。

1議席を争う小選挙区制度では、その選挙区で一番得票を得た1党だけが当選者を出せる。これを逆に言えば、第2党以下の候補者に投じられた票がすべて死票になってしまうということであり、この小選挙区制度が自民党の大勝を後押ししたことになる。

さらに、政党名で投票する比例区(全176議席)がある。自民党は1854万票を獲得、その得票率は半数を大きく下回る33%でありながら66議席を獲得した。(下記の表を参照)

1- しているかは明白であろう。

衆院選比例代表の議席数と自民党の得票率の推移



有権者の46%の棄権を考える

加えて有権者の政治不参加がある。つまり「棄権」である。2017年の選挙における棄権率は46.32%であり、約4100万人の有権者が投票場に行っていない。よって残り54%の票の分捕りあいとなる。野党が幾つにも割れていることは結果的に自民党優位の選挙結果を生むことになる。

そして最大野党の名は「支持政党なし・棄権党」という表現がある。このことは「議会制民主主義」を形骸化するものであり、政党の責任でもある。にもかかわらず与党の自民党は、その責任に関心を持たない。なぜなら、投票しなかった人を含む全有権者に占める自民の絶対得票率は小選挙区で25%、比例区で17%しかなくにもかかわらず

「絶対多数」が取れるからである。いわゆる「棄権者」が多いということは自民党に有利であるということになる

よって、野党は民主主義の骨幹である国民の政治参加を高める責任を待たなければならない。社民党もその一角を担わなければならない。

五輪の開催に、国民は感染の拡大を不安視

残念ではあるが今日の「新型コロナウイルス」の感染が拡大する中で、私たちは東京五輪の強行開催を許してしまった。「感染拡大とは無関係」と政府は豪語しつつも、第5波の拡大は無関係ではない。

(「ある程度を含め、不安を感じているとの回答86.7% 6月20日共同世論調査」)

加えて関係者の弁当の大量廃棄を含め、1年間の開催延長に及ぶ膨大な支出は今後の財政に大きく左右するだろう。河井夫妻による大型選挙違反を始め、複数の自民党議員の賄賂事件、さらに「さくら問題」「赤木メモの隠蔽」も明らかにしている。そしてワクチンの供給の遅滞に加えて、感染者の「原則自宅療養(待機)」という方針の転換などなど、菅政権の支持率は急減をしている。

今こそ、政権交代のチャンスであるにもかかわらず、野党への国民の支持、期待は停滞をしている。その答えを野党は、そして社民党は出さなければならぬと思うが、どうだろうか。

また、今、社民党は崖っぷちに立っている。その責任の一端も私たち支持者にもあることを共通の課題として「野党共闘」の運動に参加したいと思う。

早急な宿泊療養施設の増設を!!

「新型コロナウイルス感染症の拡大は、首都圏などの都市部を中心に地方へと広がりを見せている。そして福島県においても、いわき市を中心に、その拡大は全体的に増加の傾向を示している。まさに今後の爆発的な感染拡大を抑えられるか、どうか。その瀬戸際にあると言っても過言ではない。

そこで次の福島県知事の記者会見の要旨を取り上げてみたい。

「県民の命を確実に守っていくためにも、地域の医療現場が崩壊するような事態は何としても避けなければならぬ。そのためには、限りある病床を、重症者や中等症の患者さんの対応に充て、最前線で懸命な努力を続けておられる医療スタッフには、それらの対応に専念していただくなど適切な対策が求められている。このことから無症状や、軽症の方々を受け入れる宿泊療養施設を今月24日より、まず福島市内で活用することといたしました」。(令和2年4月21日)

診断は、政府でもなければ、保健所でもない

基本的には症状を問わず「自宅療養・待機」は無いとするのが当初の方針であった。そこで福島県内の「宿泊療養施設」の所在地と、その受け入れ規模の実態を見てみたい。

福島市60室・郡山市133室・会津若松市24室・いわき市60室である。(6月11日現在)

本年5月中旬、会津若松市内でクラスターが発生した。その際、市内の「宿泊療養施設」への受け入れが困難となり「他市への搬送」が検討された

が高齢者の了解が得られなかったという。地元から離れることへの不安である。それは当然である。

そして今般、政府は入院対象者を重症患者や特に重症化リスクの高い人に絞り込み、それ以外の患者は、原則として「自宅療養」にするという方針への転換をはかった。では、感染者が軽症か中等症か。あるいはリスクがあるから入院させるべきかどうか。その判断は誰がするのか。それは政府でもなければ、保健所でもない。患者を診断した臨床医師である。しかし、その医師も「受け入れる病床も医療体制に限界があることを訴えている」。そのことは第3回目の緊急事態宣言が出された東京、大阪において、重症病床の危機的な状況を経験している。にもかかわらず、第4、第5波の大量の感染者の発生を見通せなかった政府の「情勢判断のあまさ」とサボリ」そして「五輪の強行開催をもつて「まかそう」とした事の結果であることが強く指摘されている。

遅い、それだけで良いのかを問いたい!!

今般、「いわき市」の感染状況を伝える報道が続く。そしていわき市医師会は次の取り組みを確認した。「市医師会の71医療機関は各地区の感染症の自宅療養者に対し、毎日電話を掛けて体調を確認する。医師が患者の状態を確認し、入院の必要があると判断すれば、市保健所に働き掛けて入院の手続きに入る」という新たな取り組みである。(福島民報・8月5日)

「コロナは「指定感染症」であり、保健所が感染者の情報と病床の確保の管理にあたる。病状を確認

した地域の医師の働きかけがどこまで生かされるのか。残念であるが市保健所の対応の限界も生じているだろうことが察しられる。そして「自宅療養(待機)」の増加は現実なものとなっている。

「いわき保健所・鈴木浩貴課長「現在、自宅療養されている方がおよそ300人ぐらい」「自宅療養者数の割合が、福島県全体の9割を超えるいわき市」。(8月13日・福島テレビ配信より)

とするなら各自自治体で実施されている「宿泊療養施設」の大幅増に、即取り組むべきであろう。それは既存の施設(ホテルなど)の所有者との契約の是非であり、政府、自治体の本気度があれば実現できるものではないか。そして施設には、看護師が24時間常駐し、毎日の健康観察を行い、症状の急変、悪化に対しては、リモートによる医師の診察を受け、必要に応じて医療機関を受診・入院できるものとなっている」。

「自宅療養(待機)」による急変と、そのことによる死亡を防ぐことは明白である。

そして今般ようやくにして、県は郡山市に宿泊療養施設60室の増加と、県内全体で確保病床の101床の増を表明した。(8月12日・福島民報)

さらに、「コロナとの闘いは戦争である。早急な「大型野戦病院」の開設が叫ばれている。ベットと仕切りは段ボールもあるだろう。患者をまとめることは効率が良いことは確かであり、本人や家族の不安は軽減されるだろう。

その開設を急がなければならない。



【「たむかひ」・気づいたこと、感じたこと】

見え隠れする政府の「黒い雨」政治判断

菅総理の「広島黒い雨」裁判判決を上告しないとのニュースが伝えられましたが、オリンピックと同様に、政権浮上の政治判断が見え見えの態度は、そんなことで国民の目を欺けると思っているのかと考えると。一国の総理の軽々しい態度としか私には映らないのですが、いかがでしょうか。今回の広島高裁の判決は、長崎や、福島原発事故にも影響を与えるものでありますが、それも私たちの運動にかかっていると思います。近頃のこの種の運動が、広く国民的広がりを見せないのも、労働組合の社会的責任とは何かが問われるものでもあると私は考えます。この機会に改めて「核の問題」を取り上げ、多面的な運動を、国民運動としての展開ができるように原水禁関係者や平和労働会議の運動課題として取り上げられることを期待しています。過日関係者にそのことを提案しましたが、反応はいまいちでした。社民党もこの問題でキヤンペーンを取り組むように提案したいと思いません。

(東京・U)

「いい地よい疲労感と昼寝の習慣で気分一新

「女の新聞」、ペットの高齢化に対応するを読んだこともあり、昼間に母親が一人で心配なこともあり犬を飼いました。あれから11年、犬も高齢化で、最近耳も遠く、居眠りが多いのです。記事には日頃からのケアとして、散歩も平坦な道だ

けではなくスロープや階段など足腰を鍛えることが大事とありました。我々の日常活動にもつながりますね。そして次のことを報告したい。

① 20代に重い荷物を背負うことが「登山」との思い込みから「首」と「腰」の骨の一部に「間隔の違う場所」ができた。現役引退後に「腰が曲りがち」などになっている。対策の一つと思いい公民館の「ヨガ教室」に通いはじめた。昼間は農作業なので「動いている方」と思っていたが、「使いきつていない筋肉等」があるようだ。社民党の運動も「不得意分野の筋肉」を鍛えることに努めたい。

② 連日「五輪」の放映で気になるのは、「アスリートのタトウ」。船乗りの一部には「万一遭難しても身元がわかる!？」ために聞いたことがある。「スポーツは決死で行う」ものなのかな？

(喜多方・SY)

蟬の一生と高齢者の一生を重ねて考える

蟬の一生は卵から孵化し土の中へ。そして2年から6年かけて幼虫となり、やがて気温のあがったある夜、地下からはい出して飛び立つ。あるものは飛び出したとたんに天敵の餌となるものもある。幸い寿命を全うできたとしてもその生存期間は約1ヶ月、そして子孫を残してこの世を去る。我が家の庭の「紫蘭」の毎年飛び立っていたが、猛暑の今年はその抜け殻を見つけないことができなかった。

9月の日本は台風銀座の様相を呈する。そこで被災され、命を失う高齢者を思う。その皆さんは独居か、あるいは二人暮らしの方が多い。逃げ遅れ、押し寄せる水を逃れて二階へ、あるいは屋根に

逃れる「垂直移動」ができなかったという実態が毎年報じられている。つまり時間をかけても二階へ移動できれば助かった命も、あつという間の浸水はその皆さんに時間的余裕を与えなかった。

生きにくい環境に置かれていたのかもしれない「地下の蟬の幼虫」と「逃げ切れなかった」高齢者の一生を重ね合わせ、重い気持ちになったある晩夏の夜であった。

(郡山・M)

菅首相が述べていること私にはわからない

「東京都の新規感染者数が過去最多となり全国で2万人を超えたこと」について「8月13日の記者会見での菅首相の言葉があります。

「国民の命を守る、これが政府の最大の責務であります。そうした中で、御自宅にいる患者の方には必ず連絡が取れるようにし、ここは自治体と連携して、そして例えば、酸素の投与が必要になった場合の酸素ステーションを設置するなど、そうした体制を速やかに構築するように関係大臣に指示しました。また、非常に重症化防止に効果があるとされる新しい薬、中和抗体薬です。これについては医療機関の中で治療できるようにする」と述べています。

それではお尋ねをします。首相は今、自宅療養者が急変時に保健所に連絡をしても通じない。救急隊が100件の医療機関から「対応できない」という断りを受けていることなどを「存じないのでは」か。それでいて「国民の命を守る……」と。

私はこの首相の言葉は理解できません。「ごまかさなさいください。」

(郡山・女性)

【ニュースを読んで】



■介護保険20年になるのですね。記憶と体力が続く限りは仕事を続けるつもりですが、私もそろそろ人ごとではなくなりました。介護保険制度はまだまだ不十分ですね。まずは介護職の報酬を上げることからだと思います。そのためにも選挙をがんばらなければ。百済さんの記事を見て、菅首相の嘘も去ることながら、非難しないマスコミに怒りを覚えます。この五輪を終えた後に総括をしなければますます世界からの笑いです。「ニュースを読んで」投稿者が多いですね、それだけ憤りを感じている方が増えているということですね。

■山岳会の「山行例会」で「飯豊連峰」に入山しました。麓の駐車場が今までに見たこともない程の満杯、しかも「遠い県外No.」も多く、この「コロナ禍」で多くの「山小屋」が「予約・制限」になっているもの、「こ」はその制限がないらしい。多くの登山者の荷物を見ると「テント」携行。入山者が増えるのはうれしいが、(県外への移動)もう少し我慢できないのだろうか。これが「オリンピック(強行開催)」「効果」と言うことか。知人が「知事抹殺」の真実(闘う政治家が抹殺された背景に迫るドキュメンタリー映画)のエンディング曲を担当されたと知りCDを求めた。原発や国策に異を唱える人を抹殺していく見えざる力を訴える内容だ。「原発汚染水海洋放出反対」の取組をしているが、あらためて「原発問題」そのものに取り組んでいる社民党という存在に思いを致したい。

■私は、ワクチンは地元が遅いので大規模接種でモデルナ製を打ちました。自衛隊に借りを作りたい気はしたのですが、背に腹は代えられませんでした(笑)。

■こちらも本州と変わらない猛暑が続く、うだるような暑さです。先日は21年ぶりに35度を記録し、調理をする日は蒸し風呂で仕事をしているような体調です。いよいよ五輪が開幕しました。コロナの感染拡大も心配ですが、開幕に至るまでの迷走ぶりや、噴き出したスキャンダルの多さ、質の低さには心底あきれ果てました。この国はいつのまにか、モラルや人権の面でも、とめどなく劣化の道をたどっていたことが、だれの目にも明らかになってしまいました。多くの方々が五輪に賛成できないのは、菅政権が何の説明も説得もせず、「開いてさえしまえば、国民は忘れて熱心に選手を応援する」という見下した態度をとっているからではないでしょうか。だれもが選手を応援したいのに、そうさせてくれないのは政権なのだろうと思います。五輪賛成の人だって、選手を活躍させたいという気持ちからで、本来は対立する立場ではない、と思います。夏休みに五輪が重なり、感染がどこまで広がるか、気がかりです。政治家もそうですが、メディアの無責任、無節操なこと、さらに加えてそれに無自覚であることに、憤りを感じます。

■今月20日に2回目のワクチン予防接種を終え取敢えず約2週間の抗体が出来る事を期待しております。幸い副反応は殆どありませんでした。オリンピックもコロナ下での開催、アスリートも関

係者も大変だと思えます。今秋の「衆院選」を睨んだものでしょうが、国民の意思は次の次ですね。菅首相は優秀な？官房長官であった様ですが、優秀な「首相」とは今の段階では如何なものなのか。コロナが終息し本来の生活に戻りたいです。

■高齢化のなかで、話題も高齢化していますが、総評書記で通訳をやっていた方のドイツの新聞のところはおもしろかったです。

■変異株は急速に首都圏から各地に拡がりを見せていて、福島県でも感染が拡大しているようです。昨夜五輪が閉幕し、今朝の朝日新聞の世論調査では、菅内閣の支持率が最低の28%になったとありました。日本人選手が出ていればみな応援するし、メダルを取ればよくやったと拍手します。だからと言って、「このコロナ禍で、五輪は中止すべきであった」という考えが変わるわけではなく、五輪が始まれば全て忘れて楽しむとか支持率が回復するとか、国民はそれほど単純ではないということなのだと思いました。ただ、同じ世論調査の次の衆院選の投票先で、野党が全く伸びていません。週刊誌の予測で、自民は減るが維新が3倍増などという見出しもありました。現状肯定派の票が自民から他の保守政党に流れる都議選と同じ構図を想像してしまう調査結果です。内閣支持率低下でも、野党共闘が相当の覚悟を示せない、国民の目には見えない気がしています。

